おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 10 号（7 月 24 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢ・ＯＧの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1で大敗での2連敗

7 月 17 日（土）Y1 第 9 節日大山形 A 戦が山形市球技場でありました。前節、新チーム初戦に守備の崩壊から 0-6 の大敗を喫したので、**良いポジションから前向きにパワーを持ってアプローチ**することや[1]、ワンツーへの対応など、若干修正して日大戦に臨む。ただし、これ、高いレベルで実行するのは容易ではなく、1 週間程度の意識付けで実行できるものでもない。「良いポジション」にしても、スピードのある相手選手が、しかも駆け引きしてきた場合、**裏を取られないようにしつつ（インターセプトのために）前に入ることのできるポジション（＝良いポジション）を取り続ける**なんて、簡単にできるわけじゃあない。ここら辺が対人競技の難しさでもあり、醍醐味でもある。

さて、試合には、**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**のいつもの御三方が、いつも通りいらっしゃる。そして前節に引き続き、**岸後援会長**もいらっしゃった。OB では、**サンペーことミツイ**（山東第 67 回卒）が試合前顔を出してくれた。「苗場（遠征に OB として帯同しますので）、よろしくお願いします」と挨拶を受ける。こちらこそよろしく、サンペー。ただ、参加する OB の面々[2]を見るに、（OB の入る）B チームの方が強くなりそうではある・・・。「勉強しろ（応援来なくていいから）」と言われるから挨拶に来ないんだろうが、ミツイと一緒に**ユート**も応援していた。ユートも苗場行きたいんだろうな～（今年は無理だよ）。多くの保護者、保護者 OBOG も、いつも通り応援に来て下さっている。

気温は真夏日。暑いだろうが、泣き言を言っている場合ではない。

スタメンは、左 SB に **1 年ノブ**を入れ、右 SH に **2 年ヨーティ**、ボランチに **2 年タカヒラ**[3]、FW に **1 年ニコラスこと怪盗シオン**というように、ポジションをちょっといじる[4]。試合がスタートすると、前節よりも（守備・球際に）集中している様子。日大相手にちょっと粘る。しかし、前半 14 分、セットプレーからヘディングシュートを許し、失点。人がいても、高さは止められないものですね。ただ、**2 年 GK ホタテことソウ**には、止められなくても勇気を持って勝負してほしかった。その後、10 分おきに失点し、前半で 0-4。

---

[1] 第 1 に狙うのがパスインターセプト（パスの場合）、第 2 にトラップ際のインターセプト、第 3 に相手に自由にプレーさせない限定（または遅らせること＝ディレイ）。

[2] 現役選手 21 名しかいないので、AB2 チーム大会に出るために、OB4 名を募集しました。すると、5 名が名乗り出てくれました。女子の多い上智大で楽しくて仕方ないはずの**カツミ**（山東第 66 回卒）、東北大の**ミツイ、タクオ**、新潟大の**シュン、クロサカ**（いずれも 67 回卒）の 5 名が、参加してくれることになりました。

[3] もう一人のボランチは、前節と同様 3 年カンタ。

[4] 前節、ノブは左 SH、ニコラスは左 SB、タカヒラは FW、ヨーティがボランチでした。

粘るシーンもあるのだが、**失点シーンが呆気なさ過ぎる**。「ディフェンスでは最悪のことを考えて行動する」癖がついていない[5]。こんな山東の諸君には、この歌詞を送りたい。
「なんにつけ一応は　絶望的観測をするのが癖です」（中島みゆき「あした天気になれ」）。

後半は、サイドをビシバシ突破され、5 失点。ただ、**2 年ヤマモト**の突破から、ニコラスのよくわからないシュート[6]が決まり、1 得点はした。新チーム、初得点は、新庄出身のニコラスが決めた。で、**結局 1-9**。1 点決まって良かった、とも言えるし、二桁失点しなくて良かったとも言える。ただ、よくよくスコアを見ると、山東の失点は、前半 14 分、25 分、35 分、45＋3 分、後半 5 分、24 分、43 分、45＋2 分、45＋5 分と、**前後半の立ち上がりと終わりに固まっている**。「立ち上がりと終わりの失点は防げるし、もったいない」とまでは思いませんが、戦い方でどうにかならないものか。**アディショナルタイムだけで 3 失点してる**し、**前後半の残り 10 分で 5 失点してる**。最後畳みかける日大がすごいというのは当然としても、何とかならないものか。**後半立ち上がりの失点と合わせると、6 失点**。ここら辺に、新チームの失点を減らす鍵があるかもしれない。

攻撃では、得点しましたが、前節（の前半）の方がまだ良い形を作れていましたね。ほぼ何もさせてもらえなかった。そう言えば、**前半にコレクターのカンタがまた黄紙もらいました**ね。しかも、またホイッスル後にボールを蹴って試合の再開を遅らせた遅延行為で。カンタくん、まさかあなた、二度目の累積の出場停止なんてないよね？　というか、何のために残ったの？

ということで、何かと厳しい新チームですが、夏の充電期間の成長にご期待下さい。すぐには良くなりませんが、少しは成長の痕を感じてもらうべく頑張らせます。夏休み明け、応援よろしくお願いします。

8 月 19 日（土）Y1 第 10 節　VS 羽黒 A　15：30～　＠山形市球技場

復興支援奉仕活動　今年もやりました

7 月 23 日（日）宮城県牡鹿半島[7]に、震災復興支援の奉仕活動をしに行って参りました。石巻市への復興支援活動は、**平成 24 年（2012 年）から始めて今年で 6 年目**。この企画、国境なき奉仕団というボランティア組織の協力を得まして、実施にこぎつけている。奉仕団のチーム山形の団長を務めていらっしゃる**遠藤さん（遠藤物産）**にコーディネート及び引率して頂き、**岡崎さん（タカミヤホテルグループ）**にはバスを運転してもらい、移動費から何からすべて、奉仕団におんぶに抱っこのこの企画。本当に貴重な経験をさせてもら

---

[5] もちろん、オフェンスでは「最高のことを考えて動き出す」ことが必要です。
[6] このシュート、訳分かりませんでした。「ヤマモトのセンターリングにニコラスがヘディングで合わせるか」と期待を持たせたときに、ニコラス、腰砕けになり、頭にちゃんと当てられなかった。するとそのボール、GK に当たり、力なく跳ね返ったボールを、またニコラスが力なく、押し込みゴール。という首を傾げざるを得ないもの。ニコラスに試合後聞くと、「GK は、ヘディングシュートが（予想より）あまりにも弱かったため、焦り、前にこぼしてしまったのだと思います」とのこと。日大の GK を「幻惑」するあたり、ニコラスやるの～（ただ、普通に決められたシーンではあった）。
[7] 現在は石巻市だが、以前は牡鹿町。

っております。1 年目は石巻市のドブさらい、2 年目は仮設住宅の草むしりなど、肉体労働そのもので、「サッカー部部員にうってつけ」でしたが、3 年目からは牡鹿半島の漁業支援活動をしている。

事前に生徒には**「自分たちの修行のために働かせて頂きに行く」**という企画の趣旨を説明。「相手のために活動に行く」という気持ちだけが先走ると、思い通りいかなかったときについつい「来てやったのに／働いてやってるのに」という傲慢な気持ちが芽生えがち。「自分の人間的成長のために行くんだ」となれば、活動は謙虚であり続けられるだろう。もちろん、活動は被災者のためでならなければならず、決して自己満足ではだめだが、**「自分の修行として行く、結果、相手が喜んでくれたら尚うれしい」**という気持ちの構えは毎年強調している。

今年も、ここ最近毎年行っている貝刺し作業のお手伝い。帆立貝の殻をゴムを挟んで 36 個を鉄線に挟み込み、逆向きにもう 36 個を挟み込んでいき、牡蠣の養殖道具を作成する。力仕事という訳ではありませんが、効率良くやるには集中力がいる（じゃないと何個だったか忘れたり、何度も数えたりしなくてはならない)。この日は雨ということもあり、うかがった漁師の方は「時化（しけ）って言うのわかるか。こういう日はゆっくりやるんだ」と仰り、まずはお茶飲み話をし始める。**山東生は少しでも働いて貢献しようと焦るものの、「話を聞くのも復興支援だと思ってくれ」とのお言葉に、一同神妙に**。当時の波の話や、これまでの復興について、30 分以上まずはお話をうかがう。「地獄絵図って言うでしょ。まさにあれだった。テレビでは人が映らないけど、流されて『助けてくれ～』と叫んでいる人があちこちにいる波を下に見たのは忘れられない」という奥さんのお話や、「牡蠣の養殖は復興してきたと言っても、まだ（震災前の）70%だな～。100%は無理だろうな」と話した時の旦那さんの悲しそうな目が、特に印象深い。その後は、昼を挟んで合計 3 時間ほど作業を行う。帆立の貝は大量にあったものの、2 グループに分かれ別々の漁師のお宅に大量 13 人ずつでうかがったものだから、慣れてくるとどんどん帆立貝が無くなって行く。**どっさりあった物がどんどん無くなって行く様は達成感もあり**、無くなりそうだと「早く終わらせてやろう」という運動部心理？が働き、さらにスピードアップしていく。結局、任された量は規定時間前に終了し、家路に就くことができました。途中、家がほとんど流された石巻市中心部の献花台のようのところで黙とうを捧げ、山形に向かいました。

活動を続けることに意味があると考え、6 年目になりましたが、来年も続けていきたいと改めて思いました。**牡鹿半島の漁師の皆さま、奉仕団の遠藤さん、岡崎さん、ありがとうございました**。